

障がい等地域支援ブロック会議報告(令和4年4月～令和4年8月)

資料 2

月	参加機関数 (うち来場事業者数)	参加者数 (うち来場者数)	担当機関名	事例タイトル	検討項目等	質問・意見	まとめ
4	36 (23)	46 (32)	障害福祉課	宇部市の障害福祉課の取り組みについて	①概要説明 ・地域自立支援協議会について ・当会議の役割について ・宇部市の課題解決の抽出と解決への取り組みについて ・これまでの取り組みの成果と今後の目指すべき方向について ②グループワーク ・その人らしく暮らせる地域づくりのできる事、取り組みたい事	・地域への啓発 ①障害の事について、子どもの頃から学ぶ機会を作る ②相談場所の周知 どこに相談すればよいか分かりにくい→相談の窓口を知ってもらう 健康相談みたいに気軽に相談に行ける場所があるとよい ・実態把握 ①障害のある人の生の声を聴く、そういった声が上げやすい地域づくりが必要 ②支援につながっていない人たちがまだいるのではないか？ ③子どもを対象とした課題の抽出が必要 ・連携 ①障害→介護へのサービス移行がスムーズにできるとよい ②医療：小児科から内科への移行が難しい	・障害者理解の促進 ・相談場所の周知と気軽に相談できる仕組みづくり ・課題抽出のための地域の実態把握 (特に子どもを対象とした課題の抽出が不十分) ・障害→介護、児→者のようにサービス等が移行する時の連携のあり方の検討
5	44 (24)	57 (36)	防災危機管理課、地域福祉課	防災や災害時の避難支援について	各課から説明 ①防災危機管理課 災害に備えて 1.危険な場所の確認 2.避難行動をとるタイミング 3.日頃からの備え ②地域福祉課 避難所について 備蓄品等 質疑応答	<質問>高潮の場合、近くの避難所(ふれあいセンター)は、水没してしまうが、どうしたらよいか。→自宅や施設での高層階への垂直避難、別の避難所を探しておく。 <意見> ・事業所の利用者と近くの避難所へ歩いて確認に行った。海のそばで道が悪く、歩行がゆっくりな人もいて時間がかかる事が分かった。→日頃の避難訓練が大切。道路陥没等を発見したら、ネイティブ宇部に写真を送ると、市の道路の担当課へ直接連絡がいく。避難情報も見られるので、登録しておくことよい。 ・事業所の利用者が、精神疾患の人が多く、噂で、避難所の受け入れがしてもらえないと聞いたが、実際どう対応されているか？→受け入れしている。避難所ではコロナの感染予防の事もあり、要配慮者の人がいるところ等をゾーン分けしている。本人が現地に一人で来られるか？どんな配慮が必要か、支援者から事前に地域福祉課に相談してほしい。一般の避難所で対応が難しいと思われる場合は、福祉避難所への避難を検討することもある。	・疾患や障害の特性等、災害時に備えて個別に日頃からどんな準備をしておけばいいか？本人、家族、関係機関等でよく検討しておくことが必要。 ⇒災害時安全に避難できるよう日頃からの準備・訓練等の徹底 ・一般の避難所でこういった配慮があれば過ごせるか？一般避難所での対応が難しい場合、福祉避難所での対応になるが、実際の受け入れ状況が不明 ⇒避難所(一般・福祉)の受け入れ状況等の現状把握
6	49 (29)	66 (42)	教育支援課	障害児支援～教育との連携～	未就学児の就学に向けての相談の流れや対応について説明 ①特別支援学校、特別支援学級、通級指導について(対象要件、指導内容等) ②各相談先・相談会、相談のタイミング ③就学後の在籍変更について ④医療的ケア児への対応について	<質問> ・インクルーシブ教育の実際について知りたい →授業のユニバーサル化をし、どの子も学びやすい授業を実施。個別に配慮が必要な子は、保護者と相談し、個別の教育支援計画を作成。教育委員会から各学校へなげかけ、実施できているか確認している。 ・教育と福祉の連携 相談したいとき学校の誰に連絡したらよいか →校内コーディネーターへ(各学校に1名以上配置)学校によっては校長・教頭が相談に乗ってくれることもある。 <意見> ・教育支援委員会 福祉系の参加者が入っていないので今後検討してほしい。→2年に1回委員を選定。今後検討していきたい	・教育と障害福祉との連携 日頃から双方向の情報共有ができるとよい→顔の見える関係づくり、お互いの現場や状況・役割等が理解できスムーズな連携が図れるようになる
7	46 (14)	48 (16)	ぴあ南風	障害児支援～事例検討：発達障害のある児 不登校の事例～	①本人が友人関係や両親との関係において、今後の生活を支える支援とは ②本人の現在の生活を立て直すための支援とは ③学校や放課後等デイサービス等との関りについて、どのように連携して行けばよいか	・関係機関の密な連携のために、定期的に担当者会議を行う ・放課後等デイサービス 3か所事業所利用→情報共有し対応を統一 療育：ソーシャルスキルトレーニング、感覚統合等のプログラムを取り入れる ・母への支援を厚くする。父に現状を伝え、協力を得る。 ・主治医へ 学校を休んでよいとの診断書→今後の方針の確認	前回、教育との連携がテーマであったが、障がい児を支援するための教育を含めた福祉・保健・医療等の連携
8	28 (19)	32 (21)	生活支援センターふなき、宇部市障害者生活支援センター	委託相談の周知と活用	①事業説明 役割、取り組みについて ②事例紹介 ・サービス未利用者 地域での見守り事例 ・ひきこもりの方 就労サービスにつなげた事例	・地域移行の取り組みについて具体的に知りたい →共生社会の実現に向けて、精神科病院や入所施設にいる人たちが、地域で生活できるように、社会資源やサービスの情報提供や当事者の声を紹介している。コロナ禍で直接出向いての説明は難しいので、リモートを活用している。 ・地域で対応に困っている事例：精神障害があつてひきこもり。家族が相談したがらない。受け入れがないと、どのタイミングで介入するか対応が難しい。 ・問題によって、どこに相談するのがよいか？ここが難しい。宇部市ではワンストップで相談を受け入れる「なんでも相談窓口」があるので連絡したことはある。	委託相談の役割、取り組みを周知し、活用へつなげていくためには？→今後の展開の検討。

